



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)

わたしの都市資源 -共通の記憶-



左の写真は茅ヶ崎市文化資料館が持つ資料の古い絵はがき。

図柄の写真にある鶴嶺八幡宮参道の大鳥居は石づくりで、関東大震災の際に壊れたという記録からすれば、大正期以前の姿であると推測できます。

一方、下の写真は、2012年に撮影した大鳥居。

同じ場所で撮影した2枚の写真の間には、およそ90年の時間が経っている計算になります。

形態や材質は変わっても鳥居や道の場所はほぼ変わりません。

時が経って変わるものと変わらないもの。

「昔」と「今」の間に確かに存在する「まちの思い出」「まちの記憶」。

丸ごと博物館はそんな「まちの記憶」を引き出して、保全・活用していきたいと考えています。



▲鶴嶺八幡宮の大鳥居

わたしの都市資源 -共通の記憶-

時代が巡って、まちの姿は変わっていても、残る「まちの記憶」。
屋根のない博物館であるちがさき丸ごとふるさと発見博物館の、「収蔵資料」であり「展示物」である茅ヶ崎の「都市資源」は、有形無形・多種多様なものが存在します。

また、茅ヶ崎のまちには多くの人を知る名所や名物だけではなく、その人その人のお気に入りの場所や思い出が詰まった、それぞれの「まちの宝もの」があって、そうしたそれぞれの人が持つ「わたしの都市資源」に光を当てることは、とても「丸ごと博物館らしい」ことだと考えています。

それぞれの人が持つ都市資源が、たとえば地域の人たち、同世代の仲間たちといった複数の人々の「共通の記憶」として重なり合うとき、それは「まちの記憶」となります。

本号では、茅ヶ崎市在住・在勤のさまざまな方々に、「わたしの都市資源」をご紹介していただきました。読者の皆様にとっても「共通の記憶」になり得るものがあるかも知れません。皆様にとっての「わたしの都市資源」がありましたら、ぜひ教えてください。

わたしの都市資源紹介 「歴史」

たいてん 御大典記念

うおつき 魚附海岸砂防造林地境界標

かながわの美林50選に選ばれた「湘南海岸のマツ林」は湘南海岸の風景と共に日本に誇れる美林と思います。湘南海岸の植林の歴史は大正時代から始まりますが本格的に開始されたのは昭和天皇即位記念事業の一環として昭和3年からの造成です。ここに紹介する鉄筋コンクリート製の「御大典記念魚附海岸砂防造林地境界標」は記念碑の類ではありませんが造林開始を証明する当時の境界標です。美しい湘南海岸の松林の造林開始の記念碑として、是非後世に残したいと思っています。江の島西浜近くにもう1本残っていますが既に崩れかけており、柳島海岸にあるこの境界標は当時の松の木と共に貴重な都市資源だと思っています。（Kさん 男性）



▲柳島海岸に立つ境界標



▲平和町・鉄砲道沿いに立つ團十郎の碑

わたしの都市資源紹介 「歴史」「人物」

團十郎の碑

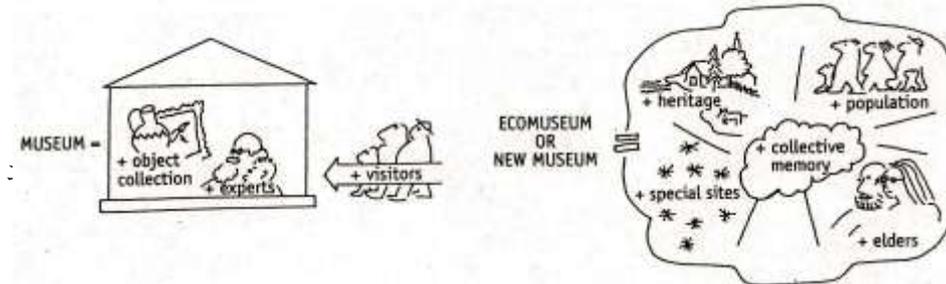
明治29年（1896）2月、江戸歌舞伎の「大名優」「劇聖」と称される九代目市川團十郎は小和田海岸近く、現在の平和町（当時松林村字小和田浜須賀）辺りに別荘用地6千坪を購入、翌明治30年6月上棟式を行いました。別荘には「弧案庵」と命名（陶淵明「帰去来の辞」より）。

私の祖父は大正年間に茅ヶ崎に別荘を構えました（現在の松が丘二丁目）。祖父の母は藤沢・大庭の生まれで、團十郎別荘の管理人と遠縁にあたり茅ヶ崎へ帰ってきた時は團十郎別荘に寄っていました。別荘の池の蓮は株わけして祖父の実家があった菱沼の長福寺（現松林）で今もなお季節になると咲いています。（Uさん 男性）

「共通の記憶」について

従来の博物館とエコミュージアム (R. Rivard, 1984)

Rivard, René. 1984. Opening up the museum or Toward a new museology : ecomuseums and "open" museums より



(左) 従来型の博物館 = 建物+収集品+専門家+訪問者

(右) エコミュージアム=領域+遺産+地域特性+高齢者+地域住民+**集团的記憶**

ちがさき丸ごと博物館は、茅ヶ崎全域を屋根のない博物館と見立てたエコミュージアムの概念を大切にしています。

エコミュージアムは1960年代後半にフランスで生まれた考え方です。従来の博物館が、建物の中で専門家が収集品を保存活用するのに対し、地域の有形無形の都市資源を地域住民が保全活用するエコミュージアムでは、その地域にある「集团的記憶」がその重要な構成要素となるのです。

わたしの都市資源紹介 「景色」

「夢の泉」

本当にあったか？なかったか？夢なのか？現実なのか？もし覚えておられる方がいましたら、「それ夢じゃないよ」と教えていただければとてもうれしい、私の記憶の中のお話しをさせていただきます。

私は、昭和45年ごろ松林小学校に通う小学生でした。小学校のすぐ裏に赤羽根山という山があり、遠足や散策など野外の授業にはよく先生に連れられて、出かけていきました。

私の記憶では、歩き遠足か何かで学校から赤羽根山までの道をみんなで歩いて、山の麓にたどり着き、山頂へ登る急坂を上がり、山の頂上の長い一本道を通り抜け、しばらく西へ歩いていくとかなりゆるやかな平らなところとなりました。

そこには、泉のような、とてもきれいな水がわいていて、記憶では、白詰草（シロツメクサ）のような花々が一面に咲き、こども心に「なんてきれいなんだろう」とうっとりとした思い出があります。

そこへ行く赤羽根山の頂上からの一本道に通じる入り口が、高学年になると閉鎖されてしまい、確認することもできず、私は大人になってもまだ、そのときの外国映画のシーンのようなその場所のことが気になりつつも、あれは、こどもの時の妄想だったのか、はたまた夢だったのか、自分でもわからなくなってしまいました。

本当にあるかないかもわからない、記憶の中の「私のちがさきの都市資源」ですが、もし、そのことを知っているという方がいらしたら、どうぞお知らせください。同じ記憶を共有し、夢の記憶も検証できれば、とてもうれしく思います。

(Yさん 女性)

わたしの都市資源紹介 「お祭り」

レインボーフェスティバル

毎年11月中旬の日曜日、神奈川県立茅ヶ崎里山公園で開催されている「ちがさきレインボーフェスティバル」。

新鮮な野菜の販売や、たくさんの出店、バンドやダンスなどのステージなど、楽しい催しが盛りだくさんで1日中楽しめるお祭りです。

もう6年くらい参加しているなかで、年々、来場者が増えているような気がする人気のイベントになっていますが、里山の秋の美しい景色の中、変わらないあたたかい雰囲気が入っています。

(Tさん 男性)



▲今年度は、11月18日(日)に開催予定。

トピックス

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクトの活動

調査研究部会、ガイド部会、こども部会、広報部会、運営部会と、ちがさき丸ごと博物館の取り組みに必要な活動ごとに部会を設置しているアクションプロジェクト。

茅ヶ崎の古写真が図柄の絵はがきを資料に調査研究をしたり、フィールドワークに出かけたり、こどもたちに「自分のまちの宝もの」を絵に描いてもらい新たな都市資源を探したりしています。



▲調査研究部会の活動



▲ガイド部会の活動

トピックス

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会（通称丸ごと博物館の会）の活動

■行事

- ・ふるさと再発見 民俗資料館（旧和田家）周辺ガイド 小和田公民館協働事業
実施日 9月29日（土）13:00～15:00
七堂伽藍跡～高座郡衙跡～相模川左岸用水～勘重郎堀遺跡～浄見寺～旧和田家
- ・大山街道プロジェクト協力 茅ヶ崎市観光協会協働事業
10月14日実施予定の大山街道モニターツアーに向けて、パンフレット作成支援・ガイドマニュアル作成支援・ガイド養成支援を実施中

■観光ガイド準備会設置

- ・9月3日 観光ガイド実施に向けて、当会の中に観光ガイド準備会を設置しました。
茅ヶ崎市内観光ガイド設置の必要性が増大しており、市関係機関や団体との協議など交え、観光ガイド実施に向けて準備を行っていきます。（毎週第1・第3月曜日 午前中開催 於 サポセン）

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何？

茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、このまちらしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれが持っている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、本市を改めて知り、本市を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかげがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくことになります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

編集後記

今回の季刊誌は、「下寺尾遺跡群」「里山の自然」「旧相模川橋脚」・・・といった、ある都市資源をテーマとするこれまでと視点を変えて、「わたしの都市資源」をテーマにしてみました。

住んでいる地域や世代、在住歴などで、「わたしの都市資源」は多種多様なものがあります。そのすべてがまちを構成する「宝もの」で、皆で共有して大切にしていけたら、と思います。

「夢の泉」の場所がおわかりになる方がいらっしゃったら、ぜひ情報を社会教育課へお寄せください。